２０２４年度　事業報告書
（２０２４年４月１日～２０２５年３月３１日）

公益財団法人アサヒグループ財団

Ⅰ．事業の概況

合併２年目となる今年度も、「人と社会の未来を展望し、主として食、生活及び環境にかかわる科学と文化の研究の助成支援を行い、もってこの分野における学術研究の発展と、国民の生活文化の向上に寄与する」との目的に基づき実施していた研究助成活動を中心とする事業を行った。

同時に、芸術文化活動に対する助成支援並びに、芸術文化資産を活かしながら芸術文化創造の支援をするため、アサヒグループ大山崎山荘美術館の運営等の文化事業を行った。

１．学術研究助成事業

２０２４年度の研究助成は、１ヶ月間の公募期間と各部門での選考委員会での選考と理事会での承認を経て１７件１，６００万円実施した。

現在、２０２５年１０月開催予定の研究結果報告会に向け、目下研究結果の取りまとめが進められているところである。

【２０２４年度助成内訳】

件名		助　成		
		申請件数	助成件数	金額（千円）
学術研究助成	食・生活部門	４１	８	７，０００
	環境・サステナビリティ部門	５４	９	９，０００
合　計		９５	１７	１６，０００

２０２５年度の研究助成は、昨年１１月１日から１１月３０日までの１ヶ月間、財団Ｗｅｂサイトを通じて公募を実施し、本年２月に各部門毎に開催した選考委員会で、申請書を基に研究内容について厳正に審査、選考を行った。

その結果、本年３月６日開催の第２回理事会の承認を経て、答申通り２０２５年度研究助成を決定した。

【２０２５年度助成内訳】

件名		助　成		
		申請件数	助成件数	金額（千円）
学術研究助成	食・生活部門	５４	８	８，５００
	環境・サステナビリティ部門	４５	７	７，５００
合　計		９９	１５	１６，０００

２．助成研究のサポート、社会発信

①　研究報告会（２０２３年度助成者を対象）

会場参加とＷＥＢ参加を併用したハイブリット開催とした。

１０／２９　環境・サステナビリティ部門　　（１０名）

１０／３０　食・生活部門　（８名）

・選考委員の他、理事、評議員、監事も参加し、熱心な質疑が行われた。

② 研究紀要の作成
２０２２年度の学術研究助成の研究結果報告を研究紀要としてまとめ、２０２４年６月より財団Ｗｅｂサイトにて公開している。

３．顕彰事業

２０２２年度より再開した顕彰事業は、対象者（過去５年研究助成授与者９７名）に対し募集要項を送付し、９月１日～３０日の間で申請を募った。
結果３名の申請を受理した。
１２月１３日の選考委員会による選考で１名の候補者を選定、３月の理事会に答申し、１名の研究賞授賞者を決定した。

４．芸術文化活動への助成

伝統工芸の技術の保存と活用、伝統文化向上に寄与する目的で開催されている公益社団法人日本工芸会の活動に対して５００千円の助成を行った。

第 71 回日本伝統工芸展　東京会場開催（2024 年 9 月 11 日～9 月 23 日まで、日本橋三越本店）、並びに同会東日本支部が開催する「第 64 回東日本伝統工芸展」を中心とする公益目的事業の活動費として、支援金を活用している。

５．美術館運営部門

「事業の趣旨」

当財団は、１９９６年からアサヒビール社より、「アサヒビール大山崎山荘美術館」の運営を委託されており、これに伴い、美術館運営事業を行っている。なお、２０２２年より同館は、アサヒグループジャパン社の所有となっている。

所蔵品・建物・自然環境という大山崎山荘美術館ならではの資源を活かし、広く芸術文化の拠点として、情報発信に努めている。

「事業の総括」

アサヒグループとしての一層の活用を目指して、2023 年より館名を「アサヒグループ大山崎山荘美術館」へ変更している。館名変更に伴い、地元新聞（京都新聞）を中心に全面広告を出稿する等、露出の拡大を図り、本年度も継続している。一層の館名の周知を図っている。

コロナ禍で中断していた教育普及活動を本格的に再開した。インターンシップ研修として京都市立美術工芸高等学校(4 名)、職場体験として立命館中学校（2 名）、向日市立勝山中学校（2 名）を受け入れた。また、大山崎町立小学校への出張授業プログラム（HOP!STEP!MUSEUM!）を実施し、京都新聞に取り上げられた。

広報活動強化の一環として、ＳＮＳに特化した情報発信を開始している。多くの経費投入はできず手の届く範囲での実施ではあるが、インスタグラムのフォロワー数上昇等、目に見える効果は出ている。従来アプローチができなかった新たな層への発信、来館者増に向けた効果的な広報活動に継続して取り組む。

前年度から実施しているが、ＪＲ京都駅においてデジタルサイネージ出稿を実施する等、新たな媒体を活用した広報活動も功を奏し、新たな顧客層へ美術館を周知することができた。

経営面では、各種費用が高騰している中、仕入れ業者からの値上げ要請、展覧会関連費用増加等、館運営のコストは増える一方となっている。安定した館運営に向け、変動制の入館料金設定へ移行している。また、喫茶部門もメニュー改定を実施し、適切な利益確保に努めた。

【企画展について】

時期	企画展の名称
2024/3/9～2024/5/12	加賀正太郎没後 70 年・ニッカウヰスキー90 周年記念　蘭花譜と大山崎山荘 ―大大阪時代を生きた男の情熱
2024/6/1～2024/9/1	愛知県陶磁美術館コレクション　中国やきもの 7000 年の旅 ―大山崎山荘でめぐる陶磁器ヒストリー
2024/9/14～2024/12/8	丸沼芸術の森所蔵アンドリュー・ワイエス展 追憶のオルソン・ハウス
2025/1/4～2025/4/6	松本俊介　街と人　冴えた視線で描く

◆企画展来館者状況　（※招待券等、無料来館者を含む）

	来館者数	目標来館者数	
蘭花譜展	14,329 人	14,500 人	達成率 99%
愛知陶磁展	12,679 人	12,900 人	進捗率　98%

ワイエス展	34,412 人	22,000 人	進捗率	156%
松本竣介展	19,376 人	18,020 人	進捗率	108%

◆「加賀正太郎没後 70 年・ニッカウヰスキー90 周年記念　蘭花譜と大山崎山荘 ―大大阪時代を生きた男の情熱」

2024 年は、大山崎山荘を造った加賀正太郎(1888-1954)が 66 歳で没してから 70 年にあたる。また、加賀が設立に深く関わったニッカウヰスキー創立から 90 年を迎える。本展では、加賀正太郎の足跡をたどるとともに、彼が後世に残した貴重な財産である大山崎山荘と『蘭花譜』を広く紹介する。併せて、ニッカウヰスキー90 周年記念コーナーを設置し、グループ企業の情報発信を行った。関連イベントとして、講演会、蘭展示販売会、山荘で嗜むウイスキーの夕べを開催。ウイスキーの夕べでは、アサヒビール社よりウイスキーアンバサダーを招き、加賀正太郎とニッカウヰスキーの関りなども含め、ウイスキー文化の魅力を発信するイベントとなった。

◆「愛知県陶磁美術館コレクション　中国やきもの 7000 年の旅　大山崎山荘でめぐる陶磁器ヒストリー」

愛知県陶磁美術館より、休館中のコレクション活用施作の一貫として打診を受け、複数案を検討ののち本テーマとなった。

愛知県陶磁美術館が所蔵する中国の土器・陶磁器を時代順に展示することで、中国陶磁の歴史を追う構成とし、当館の 所蔵品 3 点も組み込んだ。山本室では、画像石・画像塼と時代や用途の同じ作品 を展示することで、加賀正太郎の古美術収集や古代中国への興味についても紹介することができた。

一般に馴染みの薄いテーマであるため、いかに鑑賞者に興味をもたせ、飽きさせないような展示にするかが課題であり、陶磁器の専門館ではない当館ならではのアプローチを模索した。既に準備されていた各作品のキャッチコピーを全面に出しつつ、敢えてほとんどの作品に解説キャプションを付けた。キャプションや資料地図などをポップで明るいデザインにすることができ、内容とともに来館者のみならず複数の陶磁器専門館の学芸員たちからも好評を得た。

◆「丸沼芸術の森所蔵アンドリュー・ワイエス展 追憶のオルソン・ハウス」

来館者　34,412 人(目標 22,000 人)

コロナ前より企画展の可能性を探っていたが、最終的には 2024 年の 4 月に借用料を含め丸沼芸術の森と開催合意に至った。

出品作品が主に水彩か素描であり、前期・後期でほとんどの作品を入れ替えなければならなかったため、来館者が各会期の出品作を把握しやすいよう、作品の画像入りの作品リストを作成したところ、好評を博した。

展示順が複雑（本館→山手館→地中館）であったため、リストにマップを掲載し、本展順路サインを作成するなどした。会期はじめはそれらの工夫が功を奏す場面も多かったが、繁忙期には人波でサイン自体が隠れてしまい順路を見失う来館者も目立った。来館者増加の際の対応検討とともに今後の課題となる。

所蔵品のやきもの類とワイエス展の共通点を見出したコレクション展示は、アンケートでも評判が良く、バーナード・リーチ作品に対する需要も再認識した。

会期中は目標を大きく上回る来館者が訪れ、本展は開館以来、ちょうど 100 回目の企画展であったが、総来館者数では歴代 6 位、１日平均来館者数では歴代 5 位の結果となり、日本におけるアンドリュー・ワイエス人気を改めて感じた。

◆ 「松本竣介 街と人　冴えた視線で描く」

来館者　19,376 人（目標 18,020 人）

松本竣介（1912-1948）は東京で生まれ岩手で育ち、1930 年代から第二次大戦後にかけて、抒情あふれる風景画や人物画を数多くのこしている。松本は「只の線は一切のものを現はすのだ」と語り、デッサンについては特段の関心と深い見識をもっていたことが知られている。

本展では、公益財団法人 大川美術館（群馬県桐生市）協力のもと、短くも凝縮された人生のなかで画家が精力的に描きつづけたデッサンより約 50 点を厳選し、それらに関連した油彩画約 15 点とともに展示している。

Ⅱ．２０２４年度　主な事業活動

２０２４年度（２０２４年４月１日～２０２５年３月３１日）

年	月	日	項目	摘要
2024			大山崎山荘美術館 春企画展	加賀正太郎没後 70 年・ニッカウヰスキー 90 周年記念　蘭花譜と大山崎山荘 ―大

				大阪時代を生きた男の情熱
	４	１１	2024 年度助成授与式・研究賞授賞式	アサヒ本社ビル２２階ゲストハウス
	６	１	大山崎山荘美術館 夏企画展	愛知県陶磁美術館コレクション　中国やきもの 7000 年の旅　―大山崎山荘でめぐる陶磁器ヒストリー　（～9/1）
	６	３	第１回理事会	・２０２３年度事業報告及び計算書類等の承認の件 ・理事候補者の承認の件 ・監事候補者の承認の件 ・評議員候補者の承認の件 ・美術品貸出料請求の承認の件 ・定時評議員会の招集の件
	６	１９	定時評議員会	・２０２３年度事業報告及び計算書類等の承認の件 ・理事選任の件 ・監事選任の件 ・評議員選任の件
	６	１９	第２回理事会（書面）	・代表理事選定の件 ・業務執行理事選定の件
	９	１４	大山崎山荘美術館 秋企画展	丸沼芸術の森所蔵アンドリュー・ワイエス展 追憶のオルソン・ハウス（～12/8）
	９	１	2025 年度研究賞申請	募集期間：9/1～9/30
	１０	２９	研究結果報告会	環境・サステナビリティ部門
	１０	３０	研究結果報告会	食・生活部門
	１１	１	2025 年度研究助成公募	募集期間：11/1～12/2
	１２	１３	顕彰選考委員会	2025 年度研究賞
2025	１	４	大山崎山荘美術館 冬企画展	松本竣介 街と人　冴えた視線で描く
2024	２	６	助成選考委員会	食・生活部門
	２	１０	助成選考委員会	環境・サステナビリティ部門
	３	６	第３回理事会	２０２５年度事業計画他

Ⅲ．処務の概要

１．役員等に関する事項

理事の異動

２０２４年６月１９日

再任　　木下　直之
再任　　建畠　哲
再任　　植松　光夫
再任　　佐藤　隆一郎
再任　　伏木　亨
新任　　國賀　由美子
新任　　小川　順

新任　　竹山　春子
新任　　西中　直子　　代表理事就任
新任　　﨑田　淳也　　業務執行理事就任　大西隆宏退任

監事の異動

２０２４年６月１９日

再任　　松田　隆次
再任　　飯塚　昇

評議員の異動

２０２４年６月１９日

再任　　奥　正之
再任　　村上　仁志
再任　　髙嶋　達佳
再任　　大林　剛郎
再任　　原島　俊
再任　　石井　克枝
再任　　清水　二郎
再任　　海鋒　宏行
新任　　加賀屋　睦

２０２４年度末の現職役員、評議員及び選考委員は次の通り

役職名	氏名	担当職務	主な職業
代表理事	西中　直子	本法人代表	アサヒグループホールディングス執行役
業務執行理事	﨑田　淳也	業務全般	財団常勤
理事	木下　直之		静岡県立美術館館長
同	建畠　哲		京都芸術センター館長・美術評論家
同	植松　光夫		埼玉県環境科学国際センター総長
同	佐藤　隆一郎		東京大学大学院特任教授
同	伏木　享		京都大学名誉教授・甲子園大学学長
同	國賀　由美子		大谷大学文学部歴史学科教授
同	小川　順		京都大学大学院農学研究科教授
同	竹山　春子		早稲田大学理工学術院教授
監事	松田　隆次		弁護士
同	飯塚　昇		公認会計士
評議員	奥　正之		㈱三井住友フィナンシャルグループ名誉顧問
同	村上　仁志		三井住友信託銀行㈱名誉顧問
同	髙嶋　達佳		㈱電通相談役
同	大林　剛郎		㈱大林組会長
同	原島　俊		大阪大学名誉教授・崇城大学教授
同	石井　克枝		千葉大学名誉教授
同	清水　二郎		アサヒビール㈱執行役員

同	海鋒　宏之		ｱｻﾋｸﾞﾙｰﾌﾟｼﾞｬﾊﾟﾝ㈱常務執行役員
同	加賀屋　睦		アサヒプロマネジメント㈱常務取締役
選考委員	内田　浩二		東京大学大学院教授
同	橋本　渉		京都大学大学院教授
同	福留　奈美		東京聖栄大学教授
同	永富　康司		アサヒクオリティアンドイノベーションズ㈱社長
同	尾﨑　一隆		アサヒグループジャパン㈱理事
同	妹尾　啓史		東京大学大学院教授
同	窪川　かおる		帝京大学客員教授
同	伊坪　徳宏		早稲田大学教授
同	宮下　直		東京大学大学院教授
同	安原　貴臣		アサヒクオリティアンドイノベーションズ㈱理事

２．職員に関する事項

特になし

３．役員会等に関する事項

（１）理事会

開会年月日	議事々項	会議の結果
2024-06-03	第１回理事会 ・２０２３年度事業報告及び計算書類等の承認の件 ・理事候補者の承認の件 ・監事候補者の承認の件 ・評議員候補者の承認の件 ・美術品貸出料請求の承認の件 ・定時評議員会の招集の件	 原案通り承認 原案通り承認 原案通り承認 原案通り承認 原案通り承認 原案通り承認
2024-06-19	第２回理事会 ・代表理事選定の件 ・業務執行理事選定の件	 原案通り承認 原案通り承認
2025-03-06	第３回理事会 ・2025年度事業計画書及び収支予算書等承認の件 ・2025年度助成・選考委員会答申書の承認の件 ・2025年度アサヒグループ研究賞・選考委員会答申書の承認の件 ・「法人印管理規程」改定の承認の件	 原案通り承認 原案通り承認 原案通り承認 原案通り承認

（２）評議員会

開会年月日	議事々項	会議の結果
2024-06-19	定時評議員会 ・２０２３年度事業報告の報告及び計算書類等の承認の件	原案通り承認

	・理事の選任の件 ・監事の選任の件 ・評議員の選任の件	原案通り承認 原案通り承認 原案通り承認

４．許可、認可及び承認に関する事項

該当事項なし

５．契約に関する事項

該当事項なし

６．寄付に関する事項

寄付の目的	寄付者	申込金額	領収金額	受入年月日
財団運営資金	ｱｻﾋｸﾞﾙｰﾌﾟｼﾞｬﾊﾟﾝ 株式会社	192,000,000 円	102,000,000 円 50,000,000 円 40,000,000 円	2024-04-30 2024-07-01 2023-08-30
２０２４年度寄付金総額		192,000,000 円	192,000,000 円	

７．行政庁指示に関する事項

該当事項なし

８．その他重要事項

該当事項なし

附　属　明　細　書

２０２４年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第３４条第３項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」は存在しないため、作成せず。

２０２５年５月３０日

公益財団法人アサヒグループ財団

以上